

「臨床的立場からみたフィッシャーシーラント、 複合レジンを考察する」

シンポジスト

- 1) 「材料学の立場から」
岡山大学歯学部歯科理工学講座教授
中井 宏之
- 2) 「歯冠修復の立場から」
長崎大学歯学部小児歯科学講座教授
後藤 譲治
- 3) 「臨床成績について」
福岡歯科大学小児歯科学講座教授
本川 渉
- 4) 「機能的立場から」
鹿児島大学歯学部小児歯科学講座教授
小椋 正
- 5) 「臨床病理学的立場から」
九州歯科大学小児歯科学講座教授
木村 光孝
- 6) 「臨床における現状と将来の展望」
九州大学歯学部小児歯科学講座教授
中田 稔

現代の小児歯科臨床における予防・修復処理としてフィッシャーシーラントと複合レジン修復は高分子材料の発展と共に非常に重要な位置を占めるようになってきている。現在数多くの材料が開発され、それぞれに利点・欠点があり、新しい材料がすぐに開発されることから、その選択は非常に難しいのが現状である。また臨床において時々見受けられる破折・脱落や歯髄への影響などの問題点に対して術者はいかに対応すれば良いのか、窩洞の形態、咬合機能の問題、将来の展望などについて、6人の先生方にお話しいただき、会場の皆様とのフリートーキングによって問題点を掘り下げ、フィッシャーシーラントと複合レジン修復の現状と将来について考察し、皆様方の明日からの臨床にお役立てて頂けたら幸いです。